

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

梅雨の煩わしい日々が続く中、先人は「美を見つげ、心映えした」と、梅雨の晴れ間に飛ぶチョウを「梅雨の蝶」、また「梅雨の星」と例えたが、今年の梅

雨は長すぎた。続いた梅雨寒と日照不足に、昨年の猛暑が懐かしく感じとられるから、人間というものは勝手だと、毎日新聞のコラム余禄さんが伝えた。

特に東京地方では、7月前半の日照時間は、平年の1割に満たず、3時間未満の日の連続記録も統計開始以来最多を更新。7月中旬、第一生命経済研究所の首席エコノミスト永浜利広さんが「冷夏が日本経済に及ぼす影響」と題したレポートを出した。過去の冷夏の経験から、人々の外出を抑制して「教養娯楽」の支出が減り、夏物衣

料の販売不振などで「被服及び履物」、冷房器具の利用度減により「光熱・水道費」、など多岐の分野でも軒並み押し下げ、日照時間と家計消費との関係性を推計すると消費も経済成長率も押し下げたと

の影響は厳しくなるのだろうと思わせた。

農作物への影響も心配されている。大北北部地域と冷害への影響が類似していると言われる東北地域の仙台管区気象台発表では、7月下旬も平年に比べ日

「冷夏は経済を冷やす」 直面する課題はさまざま

分析した。また足元の個人消費は、相次ぐ値上り働き方改革に伴う収入減などの影響により消費者心理は大きく低下し、「冷夏は経済を冷やす」という言い回し通り、天候が回復しても観光産業現場へ

照時間の少ない状況が続く。農作物の管理等に十分注意する情報が発表された。週間天気予報も、毎日変更が繰り返された。農産物直売場には、種類少ない野菜が山積みされ、「完売しない」との恨み節

が聞かされてくる。アメリカ・トランプ大統領からは、輸出農産物への課税撤廃要求の早期妥結が求められている。また韓国とは、安全保障上の友好国として輸出上の手続きを簡素化する「ホワイト国」

から除外する政令改正の閣議決定が現実化。これに韓国の「反日」攻勢で、日本製品の不買運動デモも大規模化している。日本旅行への影響も大きく、外国観光客に期待する観光産業の今後にも大きな課題が突きつけられた。

8月の天気予想は、悪くなく、夏シーズン

後半に期待する観光関係者は多いが「むしろ来年が心配」との答え。オリンピック実施年の観光誘客に対する取組に、地方も主体的な戦

略を持って1年を迎えるべきだろう。
(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



7月下旬の稲丈の短さが心配になる。8月に期待だ